



「4年くらい育てたヘビの皮が厚くて一番いい」と話す仲尾次三線店のご主人。



**START!** 「中国からもたらされた三線。中国語のサンシェン(三弦)からサンシンと呼ぶようになった」と教えてくれたガイドの屋嘉比さん。



沖縄芝居の役者として今も活躍する仲嶺真永さん。どんな小道具も自分たちで作るのが沖縄芝居の特徴だ。



県外からも三線の修理の依頼があるという「ちんだみ三線店」。



「島唄ライブ 樹里」。今夜のステージは県立芸術大学で琉球芸能を専攻中の石嶺愛莉さんと、石垣島出身の垣花賢也さんの若いコンビだ。



- 所要約2時間 2晩目
- てんぶす那覇前集合
  - 国際通り
  - 竜宮通り
  - 牧志公設市場界限
  - パラダイス通り
  - 民謡酒場

# 「まちに息づく島唄の生命力」ノリノリ♪夕暮れ民謡酒場」コース

## 暮らしのすぐそばにある島唄の世界にふれる小さな旅



ちょい飲み後、いい気分で竜宮通りをふらふら歩く一行。



### GOAL!

2軒目「アリエス」に到着。ソーキの煮つけや野菜の煮物がドーンと出され、みんなウハウハ言いながらカンパイ!

●料金4,000円(ガイド料、2店舗分の飲食代含む)

入れないよね」「うん。でも、また来たい」と参加者たち。泡盛のグラスがどんどん空になっていく。

**今** 夜は那覇のあちこちに今も息づく島唄の素顔にふれ、民謡酒場で盛り上がるコース。ガイドの屋嘉比進さんによると、国際通りだけでも民謡酒場が20軒もあるそうで、「今も新しい民謡が生まれている」と聞いて驚いた。沖縄では民謡はけっして古い音楽ではないのだ。

さっそく訪ねたのは牧志公設市場に近い水上店舗2階にある三線工房「仲尾次三線店」。三線の胴に張る、3メートルもある本物のニシキヘビの皮にびっくり。三線や二胡用に「ベトナムでニシキヘビを養殖している」と聞き、また驚いた。

お面やかつらなど沖縄芝居や踊りの小道具を作っている仲嶺真永さんの工房にも立ち寄った。劇団「真永座」を主宰して沖縄芝居の役者もしている仲嶺さん。役者の色気と、伝統を守る気概をもったステキな方だ。

もう一軒、三線店に立ち寄ってから、いよいよ民謡酒場へ。国際通りからちよっと入った所にある「島唄ライブ 樹里」。一番前のテーブルに陣取って、ビールで乾杯。すぐに民謡ステージが始まった。

若い2人が歌うのは、「安里屋ゆんた」や「島人の宝」など、観光客の耳にもなじみのある曲。メニューの裏に歌詞が書かれているので、みんなも自然に口ずさんでいる。最後は全員立ち上がり、カチャーシーの練習だ。

カチャーシーとは喜びを表す沖縄の庶民の踊りで、リズムに合わせて両手を上げてゆらゆらさせる。最後の曲では、お客さん全員でカチャーシー。歌声と三線の音に負けない笑顔が、お店いっぱいにあふれていた。

子どもも大人もみんな手をひらひらさせてカチャーシー。

●料金3,000円(ガイド料、1店舗分のライブチャージ、飲料代含む)

### GOAL!

子どもも大人もみんな手をひらひらさせてカチャーシー。

●料金3,000円(ガイド料、1店舗分のライブチャージ、飲料代含む)

コースはこの店で流れ解散。店を出たら、もういちどさつき歩いた路地に行ってみようかな。今まで知らなかった那覇の夜に少し近づけた、貴重な時間だった。

## ワクワクに、フキフキを。

アルコール 無香料

ノンアルコール 無香料

99%除菌 アルコール 無香料

ノンアルコール オレンジの香り

**スマートブタ ウエットントン 除菌**

ウエットティッシュ

領域をこえ 未来へ

やわらか ♥ ハート

※ご使用の際は、商品に記載された<ご使用上の注意>をよく読んでからご使用ください。